

移植ごて



移植ごてとは、ガーデニング用品で、片手で持つ小型のシャベルのこと。ガーデニングの際に草花の移植をしたり、苗を植え付ける時などに使う小型の園芸用スコップ、園芸用シャベル。移植ごては根の深い雑草を掘り起こすのにも適している。英語では trowel という。移植ごての刃がまっすぐだと、えぐったり、掘ったり、すくい取るのに便利。移植ごての先端が四角いと、小さな植木鉢から土をすくうのに重宝する。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【6. 栽培用具】

カマ（かま）



縄切鎌



草刈り鎌



両刃鎌



立鎌（ホ一）

クワ（くわ）



園芸や農作業、土木作業のため、[土壌](#)を掘り起こす道具。

鍬は以下の用途を始めとして、広範囲な農作業で用いられる。

- [水田](#)の荒起し。
- [農作物](#)の周辺の土を掘り起こし、[雑草](#)を取り除く。
- [農作物](#)の根の周りに土を盛り上げる。
- [種子](#)や[球根](#)を植えるための[畝](#)をつくる。
- 一般に、土を掘ったり動かしたりする(例えば、[じゃがいも](#)を収穫するときなど)。[雑草](#)、根、および作物の残滓を切り刻んで土の中に混ぜ入れる

* 平鍬

* 備中鍬（びっちゅうぐわ）



深耕や[水田](#)荒起に用いる[鍬](#)を改良した[農具](#)である

歯が三本の備中鍬は三つ子、三本鍬、三本万能、三本マンガと呼ばび、歯が四本の備中鍬を四つ子、四本鍬、四本万能、四本マンガと呼んだ^[5]。刃の形状には、尖ったもの、角形、撥形がある^[6]。

備中鍬は文化文政時代に普及^[7]、[平鍬](#)と違い、湿り気のある土壌を掘削しても、金串状になっている歯の関係で歯の先に土がつきづらいのが利点^[8]。粘土質の土壌や、[棚田](#)を耕すために使われた^[9]。また、馬や牛を所有することが出来ない小作農にもよく使われた^[10]。

木ばさみ



市販さ

れているものは全長16~23cm程度で、太さ7~8mmの枝を切るのが限界です。一般に全長20cm、重さ200g程度が家庭園芸用の標準ですが、各自の手の大きさと握力、作業内容や作業時間などを考え、手になじみ、使いやすい形と大きさで、重さも手ごろのものを選びましょう。

ジョウロ（じょうろ）



通常、取っ手と注ぎ口のある持ち運びのできる容器で、**植物**に水をかけるために用いられる。**17世紀**にはすでに存在していたとされる。ポルトガル語 jorro の転訛に由来する(コトバンク)。

じょうろの容量は0.5 **リットル**から、10リットル程度のものまである。小さいものは家庭内にある植物に、大きいものは**庭園**などで使う。**金属**や**陶磁器**、**プラスチック**製のものがある。注ぎ口（容器の下側から出ている長い管）の先端には**ハス口**（**蓮口**）と呼ばれる、小さな穴のたくさん開いたキャップ状の注ぎ口を取り付けることができる。ハス口は水流を弱めてシャワー状にし、植物や土を傷めることを防ぐために使う。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【6. 栽培用具】

レーキ



熊手（くまで）、手把（しゅは）のこと。柄の先に爪を多数取り付けた清掃、除草などに用いる器具。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】小項目【6. 栽培用具】

フォーク



刈り取った草などをすくったり運んだりする
堆肥の積み込みや、干草やワラなどの掻き寄せ・すくいなどに。

ふるい



粉や粒状のものを選別する道具で、目的によって適当な目の大きさを用いる。[絹糸](#)、ナイロン、[銅線](#)、ステンレス線などを格子状に編んだ細かい目のものと、金属板に適当な穴をあけたあらい目のものがある。一般には[網目](#)から[ふるい分け](#)られる粒がこぼれないように、曲げ輪や板で囲んである。昔は主として米通し、[粉ふるい](#)、[粳通し](#)など、[穀物](#)の振分け調整用に農家で用いた。工業用のふるいは、太い針金で編んだものや金属板に穴をあけたもの、またふるいを[円筒形](#)に巻いた[トロンメル](#)や[鉄棒](#)を[平行](#)に並べたものがあり、ふるい目の大きさを直接その寸法で表わす。小さいものは1インチの長さの上にある目の数で示し、「…[メッシュ](#)ふるい」と呼ぶ。日本やアメリカでは0.07mm目のものを200メッシュふるいとし、これを基準に目の大きさを順次 $\sqrt{2}$ 倍した一連のタイラー[標準ふるい](#)が用いられていた。種類としては、手ふるい、傾斜ふるい、[回転ふるい](#)、[振動ふるい](#)などがある。土木建築現場や[鉱山](#)、また化学工場などで大量をふるい分け処理する場合はすべて電動式である。

0. 共通

大項目【農業と環境】 中項目【農業生産と栽培の基礎】 小項目【6. 栽培用具】

スコップ (ショベル) [剣スコップ, 角スコップ]



剣 (剣先) スコップ

刃先が尖った形状の、日本で土木作業に最も一般的に使用されるシャベル。全長はおおよそ1メートル強。上記の通り柄の終端はY字型で、二又部分に柄と直交する向きにグリップがついている。古くは柄の先端に直接握りをつけたT字型であった。この形態は比較的やわらかい対象に腕の力だけで打ち込む、速さを優先した作業に適する。海外では2メートル程度の一直線の長柄がついた物も使われており、これは地面に打ち込んで掘り起こす際に槌子の原理で大きな力をかけることができ、硬い地面を掘るのに適する。

角 (角型) スコップ

平スコップとも呼ばれる。先端が直線状の方形のブレードを備え、剣先スコップに次いで主用される。堅い土には食い込みやすい剣先、砂地など軟らかい箇所には一度に多くを掘り取れる角型と、土質により使い分ける。また、掘る以外にも砂利や堆肥などを取り分ける作業で対象を残さず掬い取ることができる。

窓スコップ (穴あき剣先スコップ)

ブレードにいくつも肉抜き穴が開けられている、粒の大きい砂利を篩い分けたり、粘土質など固まりやすい対象をすくうためのスコップ。通常のスコップより軽いため、大きな土塊になるものを扱う作業の労力を軽減する。

石炭用シャベル

幅広で平らな刃を持ち、石炭がこぼれ落ちないように刃の両脇が曲げられている。Dの字状（柄から二又に分かれた取っ手に横棒）の取っ手が付いている。